

# 燕岳&常念岳山行報告

【山行日】2018年 10月 6~8日(土~月)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 32,200円

【メンバー】 CL:鈴木 鶴見、福島、藤原

6日 晴れ一時雨 中房温泉登山口から合戦尾根を登り、燕岳へ登頂し燕山荘に宿泊  
岩舟支所P4:00=南安タクシー=6:40/7:10=  
中房温泉登山口 7:55/8:10=第二ベンチ 10:15  
~合戦小屋 11:30/12:00~燕山荘 13:30/14:30  
~燕岳 15:00/15:10~燕山荘 15:30

「紅葉の時期に燕岳に登りたい」とのリクエストがあり、10月の3連休に合わせて計画した。

せっかく登ったのだから、常念岳まで縦走し北アルプスの大展望を楽しみながら歩くことにする。今年には天気にも恵まれず、今回も台風25号の動向を見定めながら決行することにした。



長野自動車道の安曇野ICで降り、南安タクシーに車を預けタクシーで中房温泉登山口まで送ってもらう。登山口でトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。今回はF島さんの北アルプスデビューなので、3大急登の合戦尾根をバテないように、ゆっくり自分のペースで登ってもらうことにした。カエデやコナラの樹林を九十九折れに登って行くが、初めから中々きつい登りが続く。しばらく登るとカラマツの樹林に変わり、左に大きく回り込むと尾根上の登りになり第一ベンチに着く。大きな丸太のベンチで休み、衣服調整と水分を補給し一息入れる。ここからはコメツガやダケカンバの樹林に変わり、荷揚げ用ケーブルの下をくぐると間もなく第二ベンチに出る。ここからはヤセ尾根の爽やかな登りに変わり、左手の樹間に山並みが見えるようになる。登山道はさらに傾斜を増し、コメツガの原生林を登ようになる。やがて丸太の置かれた小広い広場に出て、ここからわずかに登ると第三ベンチに着く。休憩後、さらに標高差200mの急登を頑張ると、富士見ベンチに着き小休止する。正面に有明富士と呼ばれる有明山を眺めながら休憩し、果物などいただきながら疲れた体を休める。ここから合戦小屋までは約700m、標高差は163mの登りだ。樹林は樹高が低くなり、登山道の傾斜もゆるくなる。花崗岩の大岩が現れ、木の間越しに展望が開け樹林の中を右手に回り込むと合戦小屋に出る。小屋の中や外のベンチで大勢の登山者が休憩しており、我々も小屋の中に入って名物の「白玉ぜんざい」を美味しくいただいた。

低くまばらになった樹林をジグザグに登り、途中で雨が落ちて来てレインウェアの上衣を着た。合戦ノ頭まで登ると雨は止み、森林限界を超えて展望が開ける。雲が多く遠望は利かないが、正面に燕山荘が見え、疲れた体に元気がよみがえる。右手に広がる展望を楽しみながら緩やかに登り、キャンプ場から階段を登ると燕山荘に着く。



小屋前のベンチでラーメンを作り、少し遅いランチを景色を楽しみながらいただいた。



ランチが済んだら宿泊の受付をし、部屋に案内され荷物を整理する。6名の部屋を我々だけで使用出来、「ゆっくり眠れそう」と皆嬉しそう。休憩したら登山靴を履き、燕岳に向かって登山開始する。天気は晴れて、先ほどまでは見えなかった檜ヶ岳も見え、双六岳から三俣蓮華・水晶岳など北アルプスの眺望が素晴らしい。花崗岩砂礫の穏やかな稜線を辿り、イルカ岩など奇怪な花崗岩のオブジェを楽しみながら登り、標高2763mの燕岳山頂に着く。山頂は狭いが石の標識があり、360度の大大パノラマを満喫できる。北アルプス

デビューのF島さんは「素晴らしい、素晴らしい」と連呼し北アルプスの展望に感動した様子。大展望を堪能したら登って来る登山者に場所を譲り、来た道を下り燕山荘に戻る。部屋に戻りレインウェアを乾燥室に干して、着替えを済ませたら喫茶室で宴会が始まる。喫茶室は満席だったが、我輩が生ビールを飲みながら席が空くの待ちテーブルをゲット。本日はケーキサービスデーで、女性達はコーヒーとケーキセットをオーダーし、ケーキのお代わりにしていた。そのまま夕食の時間なり、食堂に移動し夕食をいただく。名物のチーズ入りハンバーグはとて美味しく、皆さん「美味しい」と満足したようだ。オーナーの赤沼さんから自然保護のお話があり、その後ホルンの演奏を聴いて大満足。夕食後は部屋に戻り、明日の縦走に備えて早めに就寝した。



**7日 晴れ時々曇り 燕山荘から表銀座コースを通過して大天井岳に登り、東天井岳・横通岳の山腹を巻いて常念小屋まで縦走する。**

燕山荘 7:00～大天荘 10:00～大天井岳 10:15～大天荘 10:25/10:35～東天井岳 11:30/12:00～横通岳 12:50～常念小屋 13:55



朝起きてすぐに窓の外を見ると雨が降っていた。天気予報は晴れの予報だが、燕岳周辺だけ雨が降っているようだ。朝食が5時からなので4時30分に食堂前に並び、一番で朝食を食べる。

出発の準備を整えて、6時に出る予定だが雨は止まず風も強い。フロント脇にあるテレビの予報を見ると、朝から晴れの予報になっている。様子を見ながら出発を1時間遅らせ、7時に出ることにした。

7時前に雨は止んだが、風は相変わらず強く吹いていた。台風は日本海を東北に向かって離れて行くので、これ以上は強くないと判断し出発した。燕山荘から花崗岩砂礫の稜線を南に進み、大天井岳を目指して表銀座コースを進む。右手に北アルプスの山々を望み、左手に安曇野の街並みを望む爽快な縦走路だ。



気持ちが良い稜線をゆるやかに登下降すると、蛙岩の岩峰群に出る。大きな岩の割れ目を抜け、正面



の岩峰を左手に回り込んで進む。一旦下ってから安曇野側を巻いて登り返し、為右衛門岩を過ぎて稜線に出ると、起伏の少ない縦走路に変る。砂礫の緩やかな稜線は爽快で、正面に大天井岳と大天荘が見え、これから登る大天井岳の展望に期待が高まる。しばらく下ると短いクサリ場に出て、下り切った所が切通し岩の鞍部。右手の岩にはこの縦走路の開拓者、小林喜作氏のレリーフがはめこまれている。ここからわずかに登ると分岐に出て、左へ大天井岳に向かって登って行く。このころからガスが掛かり始め、周囲の景色は何も見えなくなる。そのお蔭で雷鳥

が2羽登山道脇に現れ、間近に雷鳥を見ることが出来超ラッキー！！山腹を斜めに横切る急坂を40分頑張ると、大天井岳の肩に建つ大天荘前が出る。ザックを降ろしトイレを済ませ、右手に10分程登ると大天井岳に出る。あいにくガスが掛かり、山頂からの大パノラマは見る事が出来なかった。晴れていると槍ヶ岳や穂高岳をはじめ、常念岳や蝶ヶ岳

など北アルプス屈指の大展望が広がる展望の山である。山頂で記念写真を撮ったら大天荘まで戻り、小屋の入口のベンチでミカンや煎餅をいただく。小屋の前から槍ヶ岳への道を右に分け、直進して直ぐに右に大きく回り込み、砂礫とハイマツの斜面を緩やかに下って行く。ガスが晴れ風も弱まってきたが、槍ヶ岳や穂高岳は雲の中でわずかに下部が見えるようになってきた。安曇野側は晴れていて、燕岳や燕山荘がはっきりと見え、行く手には常念岳が大きく見えている。右手に石組みだけが残る旧二ノ俣小屋跡を過ぎると、東天井岳分岐に出る。風が当たらない場所を選んでランチタイムとし、味噌ラーメンを作って昼食を食べる。北アルプスの真ん中で食べる味噌ラーメンは、何処のラーメンよりも美味しい



と言って食べてくれた。東天井岳への道は廃道となっており、山腹を巻いて進む。天気はすっかり晴れ渡り、ハイマツの緑と真っ青な空のコントラストが素晴らしい。雄大な眺望に皆大満足で、「登れて良かった」と楽しいそうに歩いていた。ハイマツ帯を下り切った鞍部が廃道との合流点で、ここから横通岳の山腹を巻きながら緩やかに登って行く。登り切ると黒い常念岳が大きく立ちはだかり、左手に回り込むと眼下に常念小屋の赤い屋根が見えてくる。ジグザグに下り、樹林の中を歩くようになると、間もなく砂礫の広い常念乗越に下り立つ。



小屋に入り宿泊の受付をして、部屋に案内される。8人部屋の半分を使用でき、一人一枚の布団に寝られ安心した。今日常念岳に登る予定だったが、出発を遅らせた為到着時間も遅く槍・穂高も見えないので、明日の朝登ることにする。着替えを済ませ、荷物の整理が済んだらベランダでいつもの宴会が始まる。女性2人のテーブルに相席をお願いし、6人でお話しながらビールをいただく。お二人はツアー登山で知り合い、意気投合して2人で今回の燕岳から常念岳の山行に来たそうだ。

槍ヶ岳の山頂が顔を出すと、カメラマンが大勢ベランダに出て来て写真に収めていた。途中からワインに切り替えて、槍の絶景を見ながら美味しくいただいた。5時から夕食なので、30分前にベランダから出され部屋に戻る。5時から夕食になり、今日もハンバーグだがこちらも美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日は4時出発なので早めに床に就いた。

**8日 快晴 朝4時に出発して常念岳に登りご来光を拝み、常念小屋に戻って朝食をいただき一ノ沢登山口に下山する。**

常念小屋 4:00～常念岳 5:30/6:05～常念小屋 7:00/8:00～胸突八丁 9:00/9:10～王滝ベンチ 10:25/10:35～一ノ沢登山口 11:30/11:35＝南安タクシー12:00/12:20＝ピレッジ安曇野 12:30/13:40＝岩舟支所 P17:10

朝3時半に起きて外に出ると、星が瞬き月も輝いていた。今日は天気予報通り、最高の晴天になるようだ。水やレインウェア、行動食をアタックザックに入れ、出発の準備が出来たら外に出る。



外のベンチでストレッチを行い、ヘッドランプを点けて常念岳に向かって出発する。我々が一番先に出発するようで、他に人は見当たらない。ヘッドランプの灯りを頼りに登り始め、30分程登ると下から登るライトが見えるようになる。我々はゆっくりペースなので、皆さんよりも30分早く出発し日の出に間に合うようにした。1時間程登ると空が明るくなり始め、下からのライトも直ぐそばまで迫ってきた。前常念からの分岐手前で単独の女性に追い越され、そのすぐ先で男女2人組に抜かれたが、3番目で山頂に登頂出来た。無風快晴で東の空が真っ赤に染まり、槍ヶ岳や穂高岳もうっ

すらと赤味を帯びてとても美しい。山頂で写真を撮りながら日の出を待ち、5時50分に雲海の下から出るご来光を迎えた。神々しい光浴びて槍ヶ岳や穂高岳がくっきりと聳え、何度も見たこの景色の中でも最高の大パノラマを堪能出来た。夢中でシャッターを押し、ご来光や槍・穂高連峰をカメラに収めた。T見さんはおやつも食べず、山頂へ陣取り山頂からの大パノラマを撮りまくっていた。落ち着いたら少し下り、平らな場所でミカンを食べながら景色を楽しみ下山する。ゆっくり慎重に下り、F島さんも頑張って降り7時に常念小屋に着くことが出来た。小屋で留守番のF原さんが小屋の前で迎えてくれ、4人揃って食堂行き朝食をいただいた。



2時間半の行動でお腹が空き、ご飯とみそ汁が最高に美味しく感じた。食事が済んだら下山の準備を整え、南安タクシーにTELLして8時に小屋を出発する。3日間が一番の天気恵まれ、槍・穂高をバックに記念写真を撮り下山開始する。下り始めるとすぐに、登って来る人とすれ違う。下るにつれ登る人が多くなり、胸突八丁の狭い登山道では何回も待たされた。胸突八丁下の沢で休憩し、衣服調整してミカンを食べ水分を補給する。急降下はここまでで、ここからは沢沿いに緩やかに下るようになる。沢沿いの紅葉を楽しみながら下り、丸太の橋で沢を数回渡り返す。

樹林帯の中を歩き大滝ベンチで最後の休憩を取り、チョコやどら焼きを食べエネルギーを補給する。



で買い物をするととても安くて、皆さん大量に野菜や果物を買っていた。

我輩も天然のホンシメジとリンゴを買い、家に帰ってからシメジのご飯を楽しんだ。直売所の隣に美味しそうな蕎麦屋さんがあり、ここで昼食を食べることになった。皆さんはとろろぶっかけ蕎麦や、天ぷらぶっかけ蕎麦をオーダーし、我輩は大盛り蕎麦に特大のタマネギのかき揚げを頼んだ。蕎麦は腰が強くとても美味しく、タマネギのかき揚げも甘くて美味しかった。昼食が済んだら帰路につき、安曇野インターから長野道に乗り上信越道を進む。途中、東部湯の丸SAと強戸太田PAに寄り、ほぼ予定通り岩舟支所に帰着出来た。

なおも樹林帯の道を緩やかに下り、山の神を過ぎると間もなくノ沢登山口に着く。タクシーが待っていて、ザックを積んでトイレを済ませたら南安タクシーに向かう。タクシー会社に着くと車は別の駐車場に置いてあり、料金を払ったら駐車場所まで送ってもらう。自分の車に荷物を積み替え、靴を履き替えたならビレッジ安曇野の温泉に向かう。温泉は広く空いていて、少しぬるめの温泉でゆっくり浸かり3日間の疲れを癒す。温泉のレストランは予約が無いと食べられず、隣の農産物直売所

